

平成24年度「高浜市の未来を創る市民会議」運営の方向性について(案)

～「第6次高浜市総合計画推進会議」からの提言を踏まえて～

提言1. 分科会重視の運営

- ・ 全体会の回数は必要最小限とし、分科会活動に重点を置き、テーマについてじっくりと時間をかけて検討を行いたい。

改善に向けた
行政の考え方

⇒ 全体会の回数は必要最小限（実質4回程度）とし、分科会活動に重点を置いたスケジュールを組む。

提言2. 分科会の編成(教育・子ども分科会の見直し)

- ・ 総合計画策定時（高浜市の未来を描く市民会議）の反省を踏まえ、「もっと分科会同士の横の連携を密接に行いたい」との声が挙がったことから、今回は、「描く」の「生涯学習分科会」、「教育分科会」、「子育て・子育ち分科会」の3分科会を統合し、「教育・子ども分科会」に一本化した。
- ・ しかし、計画の「点検・確認」「実行」を行う上で、テーマの幅が広すぎ、かつ、人数（25人）も多かったため、1人当たりの発言回数が少なくなり、議論も大味になったことから、「教育・子ども分科会」を「生涯学習分科会」と「教育・子ども分科会」の2つに分けてはどうか。

改善に向けた
行政の考え方

⇒ 従来の「教育・子ども分科会」を「生涯学習分科会」と「教育・子ども分科会」に分離する（全部で9分科会とする）。

- (案)
- | | |
|-----------|-----------|
| ①財政分科会 | ②自治推進分科会 |
| ③生涯学習分科会 | ④教育分科会 |
| ⑤産業・観光分科会 | ⑥環境・憩い分科会 |
| ⑦防犯・防災分科会 | ⑧地域福祉分科会 |
| ⑨健康分科会 | |

⇒ 1分科会あたりの人数は「10～15人程度」を目安とする。

提言3. 柔軟な分科会運営(分科会同士の連携、小チームの設置など)

- ・ 「他の分科会と連携、交流したい」「横のつながりを持ちたい」との声が非常に多かった。そこで、分科会で似通ったテーマが掲げられた場合は、必要に応じて、適宜、連携ができるように、各分科会の自主性・主体性に任せた、自由度の高い運営ができないか。
- ・ 「防犯・防災 快適な都市空間分科会」について、「今年度は防災に特化して検討したが、防犯についても検討していく必要がある、別々の分科会にすることはできないか」との声があった。分科会の編成は基本計画の目標と対応しており、分科会の単位を細分化し過ぎるのは好ましくないが、必要に応じて、分科会の中に複数のチームを設けるなどの柔軟な運営ができないか。

改善に向けた 行政の考え方

- ⇒ 下期に協働で実行するテーマを決めた場合は、関係分科会の職員メンバー同士が協議・調整を行う。
- ⇒ 分科会は、基本計画の目標ごとに編成するのが原則であるが、「防犯・防災 快適な都市空間分科会」を「防犯」と「防災」の2チームに分けるなど、分科会内の小チームの設置は、各分科会の自主性に委ねる。

提言4. 実行テーマの明確化

- ・ 「出し合ったアイデアが形になった」という達成感・満足感につながるように、市民が意見・アイデアを出しやすい具体的なテーマを設定していただきたい。
- ・ 分科会で、実行テーマ以外のことを議論（生涯学習基本構想の検討）したため、混乱する場面があった。「高浜市の未来を創る市民会議」の位置づけや役割をしっかりと認識し、実行テーマに沿った運営をしていただきたい。

改善に向けた 行政の考え方

- ⇒ 総合計画の目標の達成に向けて市民と協働で取り組む「アクションプランの実行」にあたっては、意見・アイデアの出しやすい具体的なテーマを設定する。
- ⇒ 市民会議は、総合計画の「点検・確認」と「実行」を行う場であることから、それ以外のテーマを扱う場合は、別プロジェクトを立ち上げて行う。

提言5. 参画意識を高める工夫

- ・ 市民メンバーは、貴重な時間を割いて参画している。分科会では、出席者全員が発言できるように、意見を引き出すとりまわしや、楽しく話し合える雰囲気づくりを心がけていただきたい。

改善に向けた 行政の考え方

- ⇒ お茶やお菓子の用意、ポストイットの活用など、話しやすい雰囲気づくりを行う。
- ⇒ 全員発言ができるような取り回しの工夫等について、分科会職員メンバー内で事前に打合せを行う。

提言6. 職員の意識・姿勢

- ・ 職員は仕事として参画している。分科会の運営は、職員メンバーによるところが大きいので、ただその場に座っているということがないよう、どのように総合計画を達成しようとしているのか、その想いや気持ちが十分に伝わるように、会議に臨んでいただきたい。また、市民リーダーとの事前打合せも十分に行っていただきたい。
- ・ 分科会の実行テーマが、自分の仕事とは、直接関係のない場合もあるが、分科会の構成メンバーとして、総合計画の実現に向けて、積極的に発言していただきたい。

改善に向けた 行政の考え方

- ⇒ テーマが、自分の仕事とは直接関係がない場合も、総合計画の実現（基本計画に掲げた目標の達成）に向けて、積極的な姿勢で参画する。
- ⇒ 総合計画の実現にあたっては、市民との相互理解・信頼関係が不可欠である。どのように総合計画の目標を達成しようと考えているのか、行政としての想いが十分に伝わるように、会議に臨む。
- ⇒ 分科会の運営にあたっては、市民リーダーとの事前打合せを十分に行う。
- ⇒ 分科会職員リーダーは、分科会を構成する職員に対して、事前準備や当日の取り回し等の役割を持たせたりなど、職員メンバー全員が力を合わせて分科会を運営するという姿勢で臨む。

提言7. メンバー編成について

- ・ 市民会議のメンバーにもっと女性や若い世代が参画することが望まれる。そこで、分科会を編成する際は、市民リーダーと協議し、多様な意見が反映できるメンバー構成となるよう取り組んでいただきたい。

改善に向けた 行政の考え方

- ⇒ 分科会編成にあたっては、女性や若い世代にも参画していただけるよう、配慮して呼びかけを行う。
- ⇒ 地域のまちづくりに積極的に関わろうという意識を持った市民を増やしていくためにも、「応募を待つ」だけでなく、関係部署において参画メンバーを積極的に掘り起こしていく。

提言8. 市民会議のあり方について

- ・ 高浜市の未来を創る市民会議は、高浜市にとって初めての試みであるので、市民会議自体も市民とともに創り上げていくという姿勢で臨んでいただきたい。

改善に向けた 行政の考え方

- ⇒ 提言を踏まえ、常に市民会議のあり方を見直しつつ、運営をしていく。